

浄心寺だより

〒113-0023
文京区向丘二丁目十七番四
湯嶺山常光院浄心寺
発行/編集 平成二十九年六月
佐藤雅彦
<http://www.jyoshinji.jp/>

「常光」のなかに生きる

第二十四世住職 佐藤雅彦

昭和四十年代に本堂が建築されてから五十年ぶりとなる本堂の屋根瓦葺替工事が、無事にこの春彼岸会での奉告法要を持ちまして完了いたしました。

三年前の瓦崩落事故以来、皆さんには様々なご不便をおかけしました。また新しい瓦を葺き替えるにあたっては、多くの志をいただき、各々の願いの心を「志納」の内容（先祖代々や家内安全など）を浄書し、本堂に上げさせていただきました。これより先五十年、祈りの場である本堂を長くお守りいただけることと思えます。どうぞご家族や縁のある皆さんに「正面の中央部分にうちの瓦もあるよ」と、伝えて広めていただきたいと思います。

瓦の葺き替えに合わせて、本堂の外壁の塗り直し、鉄扉のサッシ化、寺号額の



塗り直し等も行われましたが、本堂正面に吊るした提灯も新しく製作いたしました。旧来は浄心寺のある地名の「本郷」と書かれてありましたが、今般は「常光」（じょうこう）という言葉を選びました。浅草の浅草寺の提灯を製作している京都の業者に依頼して作ったものです。お寺の名前は、人の名前が苗字と名前でできているように、山号、院号、寺号という三つの名前から成り立っています。

私たちの浄心寺は正式な名称を、湯嶺山（とうとうざん）・常光院（じょうこういん）浄心寺（じょうしんじ）といいます。その院号にあたる「常光」という言葉です。これは今から四百年前、浄心寺を開いた和尚・到誉文喬上人を支えて、その基盤を作った畔柳助九郎という武士の法名「常光院殿通誉存達居士」の名前の一部でもあります。

私たちが生きる道は、嬉しい時もあれば悲しい時もあります。うまくいかない時、「なんて自分は不幸せな」とうつむきがちです。仏さまを信じる人は、嬉しい時も悲しい時も、いつでも仏さまの光に照らされているのです。たとえ辛いときにも、ちゃんと仏さまが照らし守っていただけることに気づくと、私たちは悲しみの中にあつても強く生きることができるようになります。

皆さんがお寺にお参りにお出かけいだいたとき、自分のお墓だけではなく、本堂の阿弥陀さまや観音・勢至菩薩をお参りし、この提灯の「常光」の文字が目に入れば、どうぞ仏さまにいつでも（常に）照らしていただいていることを思い出し、そのお思いを「南無阿弥陀仏」と称えて、祈りをささげていただきたいと思います。合掌